

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	09 04 14	中期総合計画主要施策番号	2-03 3-13	担当課	部・課	農政部・園芸畜産課
事業名	家畜伝染病予防事業			内線	3175	
				E-mail	enchiku@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	家畜伝染病の発生を予防し、まん延を防止することにより、畜産の振興と畜産物の安全性確保を図る。				
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)等、畜産業および人の健康への影響が大きい重要伝染病が世界的に問題となっている。ヨーネ病、オーエスキー病等、家畜の生産性を著しく低下させる伝染病が清浄化されていない。				
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 国際化の進展等により重要伝染病の発生範囲が拡大している。				
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 家畜伝染病予防法に基づき全国一律に伝染病の摘発・対策を実施するための効果的な防疫体制を推進する必要がある。				
	事業内容	家畜伝染病予防法に基づき、家畜伝染病(牛結核病、ブルセラ病、牛ヨーネ病、豚コレラ、オーエスキー病、HPAI、ニューカッスル病、ミツバチふそ病等)の検査並びに消毒等の防疫対策を行う。 国庫負担金：1/2(生物学的製剤等)、10/10(消毒薬、検査薬等)				
実施期間	S26 ~	根拠法令等	長野県食と農業農村振興計画、家畜伝染病予防法			
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価
	家畜伝染病の発生予防・まん延防止を図る。	21疾病について精密検査を実施し、早期発見による迅速な対策を講じること。  HPAI等重要伝染病発生時に備えた事前対応型の防疫体制の整備を図ること。		・26疾病について精密検査を実施。 ・ヨーネ病6頭、ふそ病56群を摘発。 ・HPAI等重要伝染病の発生はない。  ・HPAIについては、実地型防疫演習他、精密検査2,390検体を実施。		a.期待以上 b.期待どおり  c.やや下回る d.期待以下
事業コスト	区 分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要
	最終予算額 (A)	千円	28,095	28,783	29,205	国庫・県単 国庫
	決 算 額 (B)	千円	26,878	28,528		実施方法 直接
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	506	379	378	歳出節別
	概 算 人件費	人	24.00	23.80	23.70	内訳等
	概算事業費 (B(H21はA) + C)	千円	198,238	198,674	198,636	(単位: 千円) 共済費8、賃金1,654、旅費1,875、需用費24,114、役務費297、使用料378、備品購入費202
事業実績	内 容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績
	牛ヨーネ病検査	頭	13,840	12,541	12,530	牛結核病:4,629頭、ブルセラ病4,629頭、牛白血病1,638頭、豚コレラ:648頭
	高病原性鳥インフルエンザ検査	羽	2,220	2,390	2,400	
	ミツバチふそ病検査	群	17,570	18,191	15,300	
事業の課題	区 分	判 定 ・ 説 明				
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・国内外におけるHPAIの発生等に伴い、速やかな防疫対策への社会的ニーズは増大している。 ・家畜伝染病の予防やまん延防止のための措置は、家畜伝染病予防法により都道府県に義務づけられている。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	課題の総括	畜産物の生産振興や畜産物の安全性確保のため、家畜伝染病の防疫対策をさらに進めるとともに、畜産業及び人の健康への影響の大きいHPAI等重要な家畜伝染病の対策を強化していく必要がある。				